

# DEBUT 首長

富山県氷見市長 本川 祐治郎氏



ほんがわ・ゆうじろう 1967年富山県高岡市生まれ。早稲田大学卒業後、衆議院議員秘書や高岡商工会議所で地域振興の事業に携わる。退所後、家業のしょうゆ醸造業で経営に従事。その後、地域経営コンサルタント会社を設立。4月の市長選挙で前職の推す候補を破り初当選。46歳。

## 魚ブランド確立に物語性を 市民参加の視点を大切に

**氷見市** 富山県西部に位置し、人口5万1800人。特産は寒ブリや氷見牛。漫画家の藤子不二雄<sup>Ⓐ</sup>氏の出身地。一部が北陸電力志賀原子力発電所30km圏に含まれる。

——氷見は寒ブリや牛肉が有名です。1次産品のブランド確立をどう進めるか。

以前、コンサルタントをしていたこともあり、営業は得意な方。商品の名前を連呼したりパッケージで奇をてらったりするだけではだめだ。氷見は魚の取り扱いが丁寧だということでブランドを確立してきた。魚の締め方や保存の仕方一つをとっても、そこには「物語」がある。実家のしょうゆ屋でも経験したことだが、背景にあるこだわった作りや扱い方をしていることを伝えなければならない。

漁師町である氷見には漁協だけでなく、乾物屋や旅館、民宿にも魚を語れる人たちが多く。この厚みは本物だ。その厚みを伝えていきたい。

——2015年春に北陸新幹線が開通し、近くに新駅（新

高岡駅）ができる。

北陸新幹線で長野とつながるため、長野から観光客を呼び込める。長野県民の海に対する渴望は強い。これは氷見と岐阜とのつながりが証明している。氷見には岐阜からの観光客が多い。市は岐阜県関市、商工会議所は美濃加茂とそれぞれ提携している。長野県民、東京から善光寺などを目的に長野まで来た観光客に海を見せたい。

だからこそJR氷見線と城端線を絶対に直通で結びたい。これは高岡出身の市長としてやり遂げたい仕事だ。ただ氷見はこれまで素材のよさに頼りすぎ、おもてなしは得意でなかったようだ。この点はもっと東京や大阪などで勉強しないとイケない。

観光以外の効果も期待できる。北陸は災害時に重要なバックアップ機能を果たす地域だ。能越自動車道と併せて、交通基盤が整備されていることを訴え、企業誘致に結びつけたい。

——中心市街地の活性化をはじめとするまちづくりをどう進めますか。

市民病院など古い施設の跡地

に新しいハードを作るという発想ではだめだ。市民が何を幸せと感じているのかから議論を始めないと。ハードからソフト、ソフトからハードへの流れを作りたい。そのいずれにも一貫して市民参加を徹底したい。

——氷見市は県の地域防災計画で県内で唯一、原発対策の重点区域として明記された。

実践目線でマニュアル作成やシミュレーションに取り組む。避難訓練には目的意識を持ってもらう。町内会活動で交流のある宮城県気仙沼市では東日本大震災の時、避難を諦めた高齢者の説得に苦労したと聞いた。

目的を、高齢者も自信を持ち避難できるものにしたい。そうすると、若い世代が曇ったメガネや膝の曲がらない装具を付け高齢者の立場で訓練に参加するなど工夫が生まれる。避難場所でも行政が一方向的に決めるのではなく住民の意見を反映させる。（聞き手は富山支局長

吉田 力）